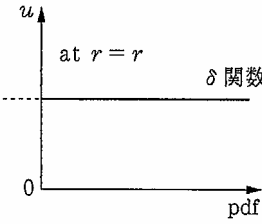
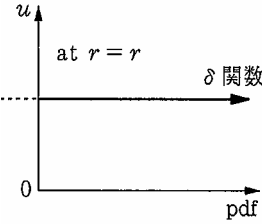
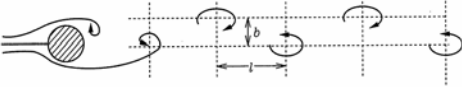
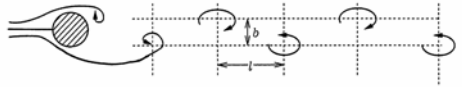


頁	行・図・式	誤	正
24	[5]		4章章末問題の[11]とする。
74	図5.16(c)	 <p>(c) 確率密度関数</p>	 <p>(c) 確率密度関数</p> <p>「δ関数」の下に矢印を加える。</p>
77	上3	…が一定である…	…が円周上の至る所同じである…
83	上5,6	そこで、式(5.143)、(5.144)で慣性項と粘性項のオーダーが等しいと近似すると、…	一方、式(5.143)、(5.144)で主流では慣性項が支配的であり、壁のごく近傍では粘性項が支配的であるが、境界層内では慣性項と粘性項のオーダーが等しいと近似できる。したがって、…
87	上2	… ρ であるため、…	… ρ_0 であるため、…
88	図5.31	図中の二つの「 τ_0 」	二つとも「 τ_w 」
91	下6	…鉛直上方から角度 θ の方向に流れる…	…鉛直軸と角度 θ をなす…
92	図6.2中	流水が発達した領域	流れが発達した領域
107	上11	…ダランベールのパラドックス…	…ダランベールのパラドックス(d'Alembert's paradox)…
109	図7.11		 <p>円の中心が渦対の中心線上にくる。</p>
109	下6	…に対する実験式…	…に対するテイラー (G.I.Taylor) の実験式…
120	上10	は温度拡散率…	は熱拡散率…
196	2章解答 [5]		4章章末問題解答の[11]とする。
197	4章解答 [6]	$v_2 = 5.33 \text{ m/s}$, $\rho_2 = 128 \text{ kPa}$	$v_2 = 3.55 \text{ m/s}$, $\rho_2 = 135 \text{ kPa}$

最新の正誤表がコロナ社ホームページにある場合がございます。
 下記URLにアクセスして[キーワード検索]に書名を入力して下さい。
<http://www.coronasha.co.jp>